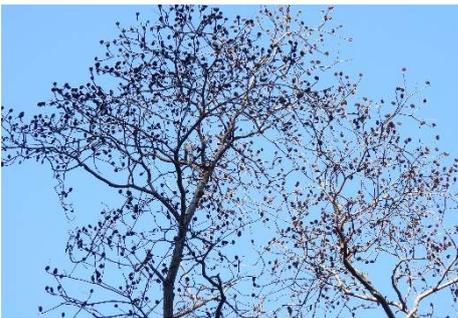


風土記の丘の花だより¹¹⁵

今、そしてこれから見られる植物(2021年12月18日)

早いもので今年もあと10日ほどになりました。寒い中、サザンカがよく咲いているし、ヤブツバキやスイセンもちらほら咲き始めました。



花ではありませんが、花のようなものが咲いています。フユノハナワラビです。シダ植物なので華やかさはありません。たとえば小早川家住宅の南の一段上がった所のように、長い間掘り起こされていないような所に生えています。とてもよく似たオオハナワラビも生えています。葉のギザギザをよお〜く観察してください。ギザギザが鋭い方がオオです。マツバランも生えています。今のところ、園内では2箇所を確認しています。そのうちこれは修復古墳の上の休憩所から少し手前のサクラの根元です。散水栓の近くです。シダ植物ですが、一般的なシダとは全く印象が違いますね。どこが茎やら葉やら分かりません。この植物、根がなく、葉はとても小さく退化しています。珍しいので、あえて名札は立てていません。見つけたら優しく観察してみてください。

葉を落としたノグルミに実がたくさん見られるのが見られます。大日山に向かって歩いていると右に見えます。とても背の高い木ですすぐ分かります。ナッツのクルミと同じ仲間ですが、実は全く違います。松ぼっくりを2, 3センチに小さくしたようで、かわいいです。でも拾いに行けませんね。

ヤツデの花が今ちょうど満開です。(表現がむずかしいのですが)雄しべがよく目立つのが両性花で、後から雄しべが取れ、雌しべが大きくなり、雌花みたいになります。ヤツデの花は、とてもややこしいので興味のある方は、詳しく調べてみてください。八つ手といいながら、葉は5, 7, 9など奇数に分かれます。昔から8が縁起のいい数とされたため、八つ手になったといわれています。 松下